

禁煙 シリーズ27 ～たばことインフルエンザ～

初雪が降り、いよいよ冬が到来しました。インフルエンザも流行し始めています。さて、喫煙は、呼吸器（気管支や肺）の形態・機能を障害し、細菌やウイルスが定着しやすい環境を作りやすくします。また、免疫機能（細菌やウイルスから身体を守る働き）を低下させ、感染症に罹りやすくします。実際、様々な研究で、喫煙者は非喫煙者に比べて、インフルエンザに罹りやすいことや、肺炎による死亡率が高くなることが示されています。

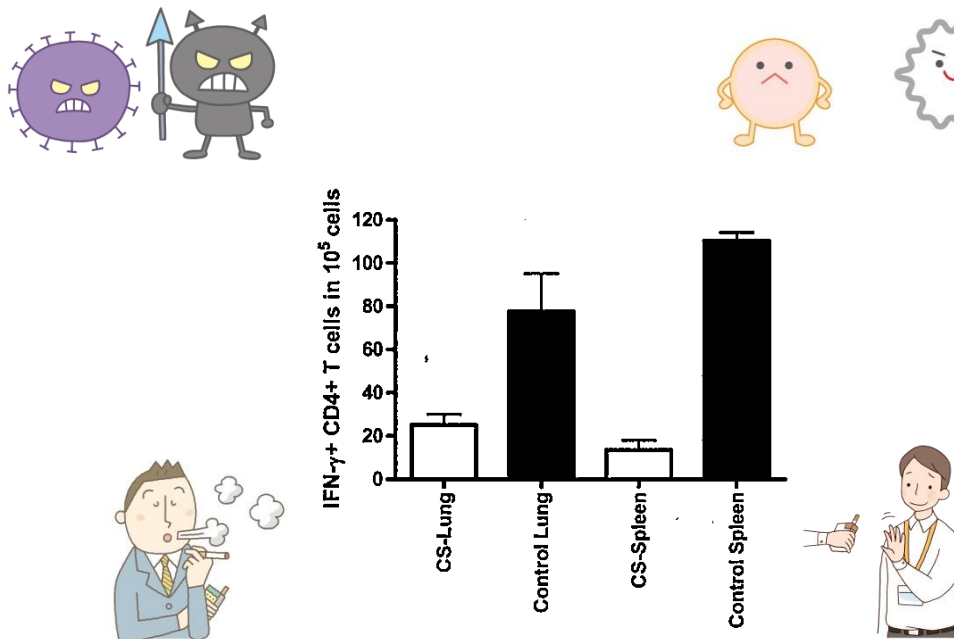


図 たばこ煙暴露の有無によるインフルエンザウイルスと戦う免疫力
横軸：たばこの煙に暴露されたマウス（CS）と暴露されていないマウス（Control）で、肺（Lung）と脾臓（Spleen）をそれぞれ比較。
縦軸：インフルエンザウイルスと戦う免疫力の程度（IFN- γ を分泌するT細胞数/ 10^5 細胞中）。
多いほど免疫力が強くなる。

〈引用〉 Yan Feng, et al. Exposure to cigarette smoke inhibits the pulmonary T-cell response to Influenza virus and Mycobacterium tuberculosis. Infect. Immun. 79 : 229-237, 2011

保健管理センターでは、呼気CO濃度測定などの禁煙活動とあわせて、禁煙を希望する方に、ニコチンパッチの処方（処方には医師の診察が必要です）を行っています。また、ご希望があれば、禁煙治療を行う近隣の医療機関への紹介も行っています。喫煙者の方は、インフルエンザに負けない身体になるためにも、ぜひ禁煙にチャレンジしてみませんか。



保健管理センター（電話：31-5065、内線 2492）